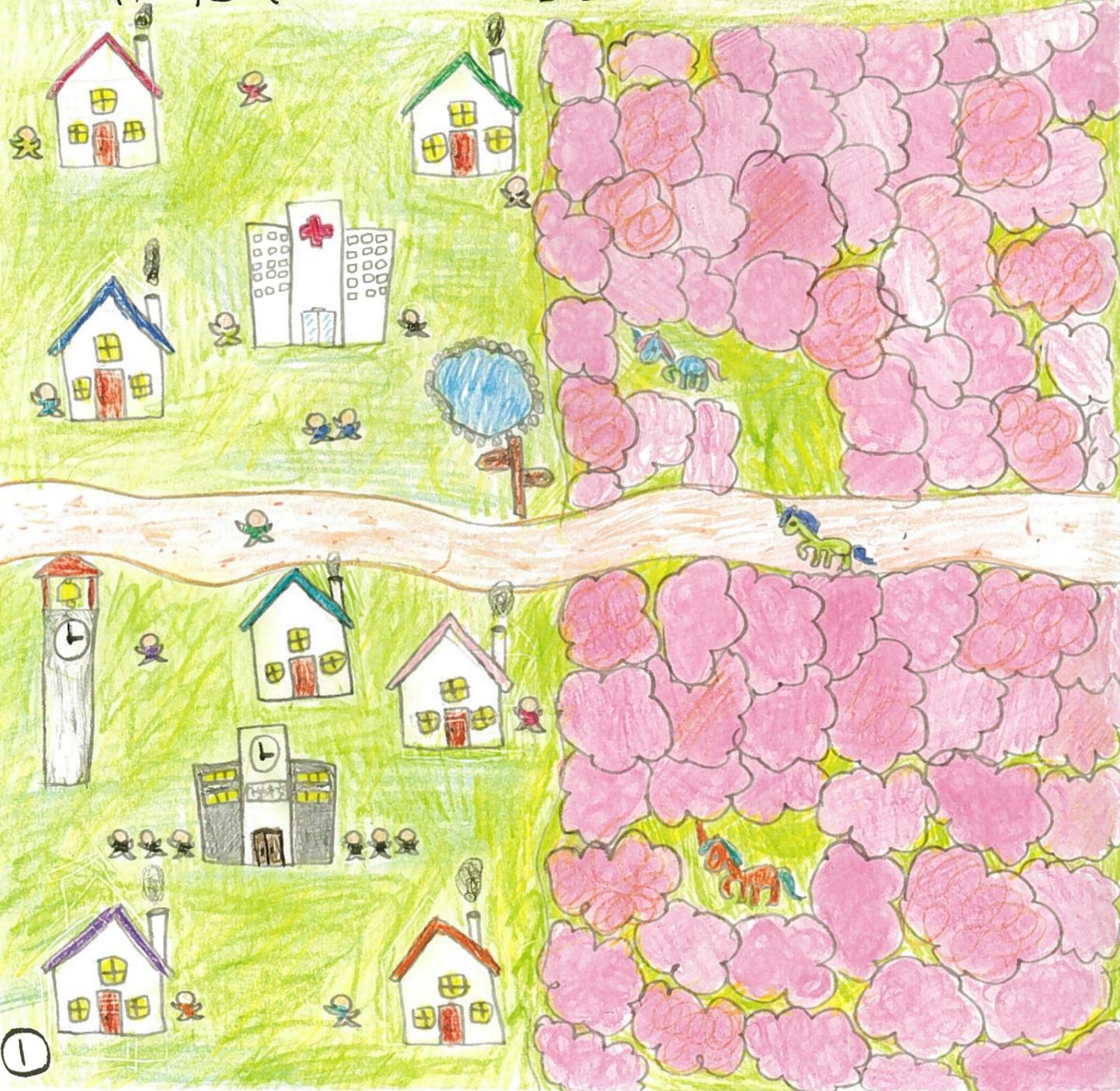


ユニコーンの コットンキャンディーの森



長友 優英

雲の上の国に、ララという女の子がイ主
でいました。
近くにはコットンキャンディーツリーの森
があり、そのユニコーンたちは、大好き
なその葉っぱを食べて暮らしていました。
ララは、このユニコーンの事が好きで、
頭をなごたり、美味しい食べ物をあ
げたり、とても幸せに暮らしていました。



木にはたくさんユニコーンがいました
が、ララの一番の仲良しは、モモという
ユニコーンでした。
モモは、お尻にピンクのハートマークが付け
ている、モモはララのことが大好きでした。

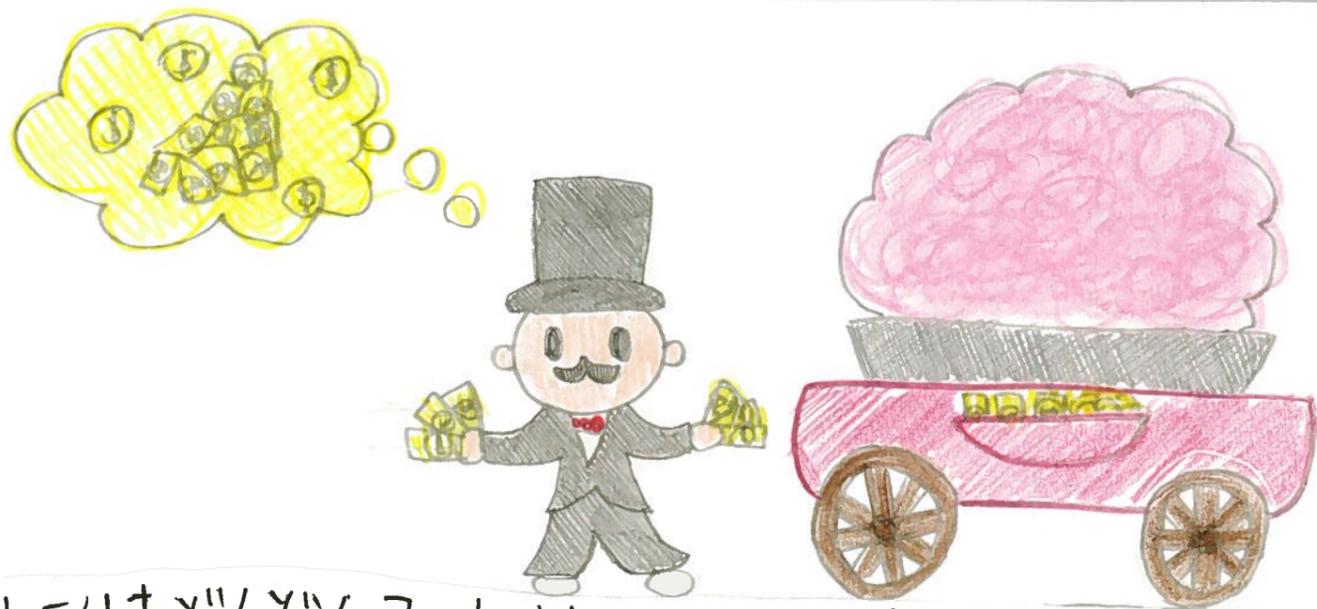




カレンという男の人がいました。カレンは、
 「みんな大好きなコットンキャンディー。よ
 し！それを売って、お金持ちになろう！」
 と考えました。
 「さあ、甘くておいしいコットンキャンディー！
 たくさんあるよー」
 見た目もかわいく、おいしいコットンキャン
 ディーはたちまち大人気になり、ワゴン
 には毎日行列が出るほどでした。

そのころ、森のユニコーンたちは、
 「あれ？最近コットンキャンディーがあんまり
 無いなあ。お月復すいた。なんでだろう？」
 コットンキャンディーが少なくなっていること
 に気付いたんだん、心寂己になってきました。





カレンはどんどんコットンキャンディーを売り



みんなはどんどん買っていき、



ユニコーンたちはどんどんお腹を空かせていきました。



ある日、ララは美味しいコットンキャンディーを持って、森にユニコーンたちを会いにいきました。

すると。。。

コットンキャンディーツリーが一本もありません！
ユニコーンはモモしかいませんでした。
ララはモモのところに走りました。
「モモ、どうしたの？みんなはどこ行ったの？」
モモは豆莢を下げてララのおねにくっ付きました。
「みんなは、食べ物が無くなって、にじの国まで
行ってしまったの。オムは、最後にどうしてもララ
に会いたくて待っていたのよ」

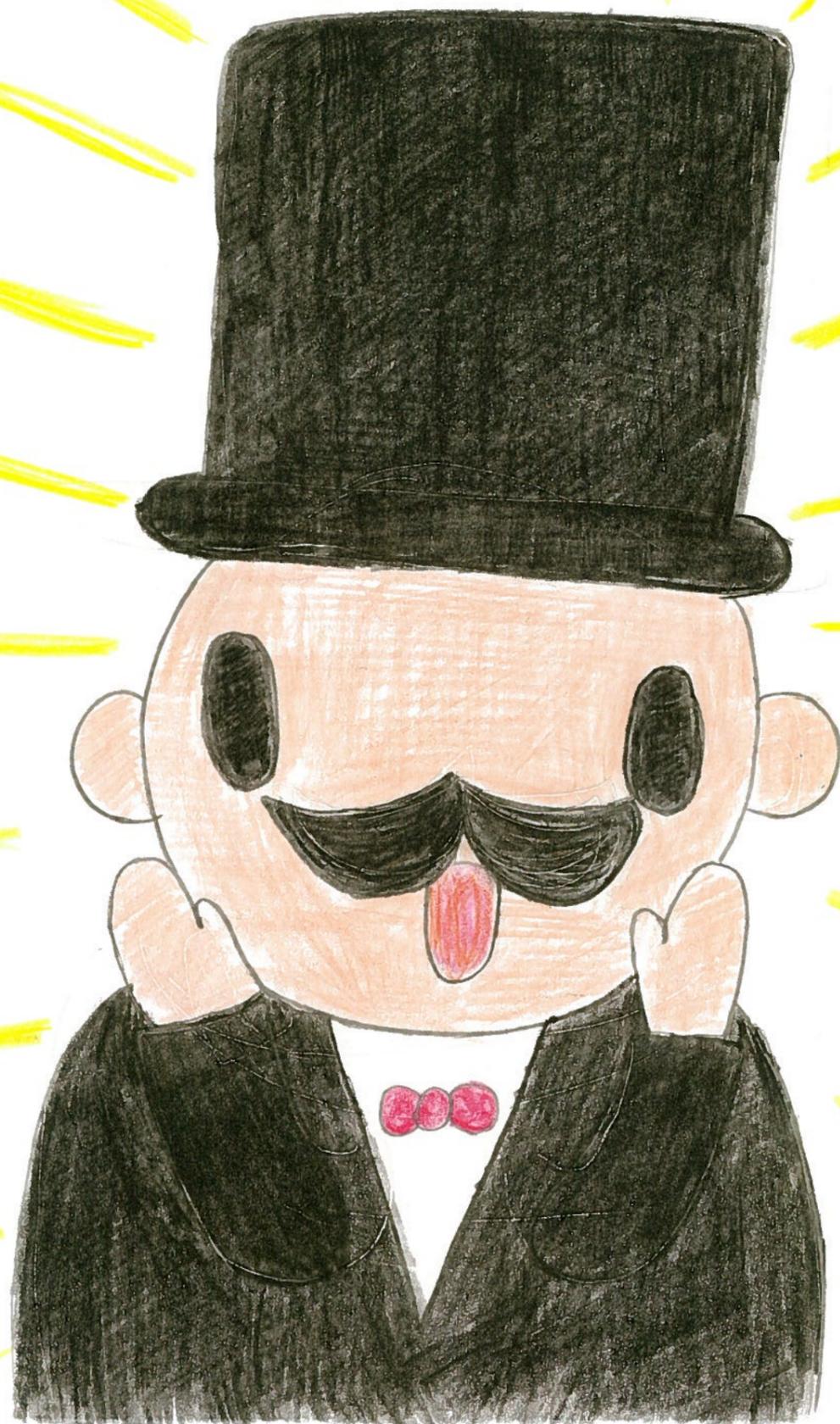


ララはモモをキュッと抱きしめて、自分のコットンキャンディー
をモモにあげました。モモは食べた後、こう言いました。
「ずっとここにいたいけど、もう食べ物が無いから、
わたしもにじの国に行くね。」
そう言ったとき、にじが現れました。
「ララさようなら。」
モモは、にじをたどっていき、にじの糸者に消えました。
ララは、泣きながら最後まで見送りました。



くうせんそれを見ていたガレンはショックを受けました。
ユニコーンたちがみんないなくなるなんて、考えてもいま
せんでした。

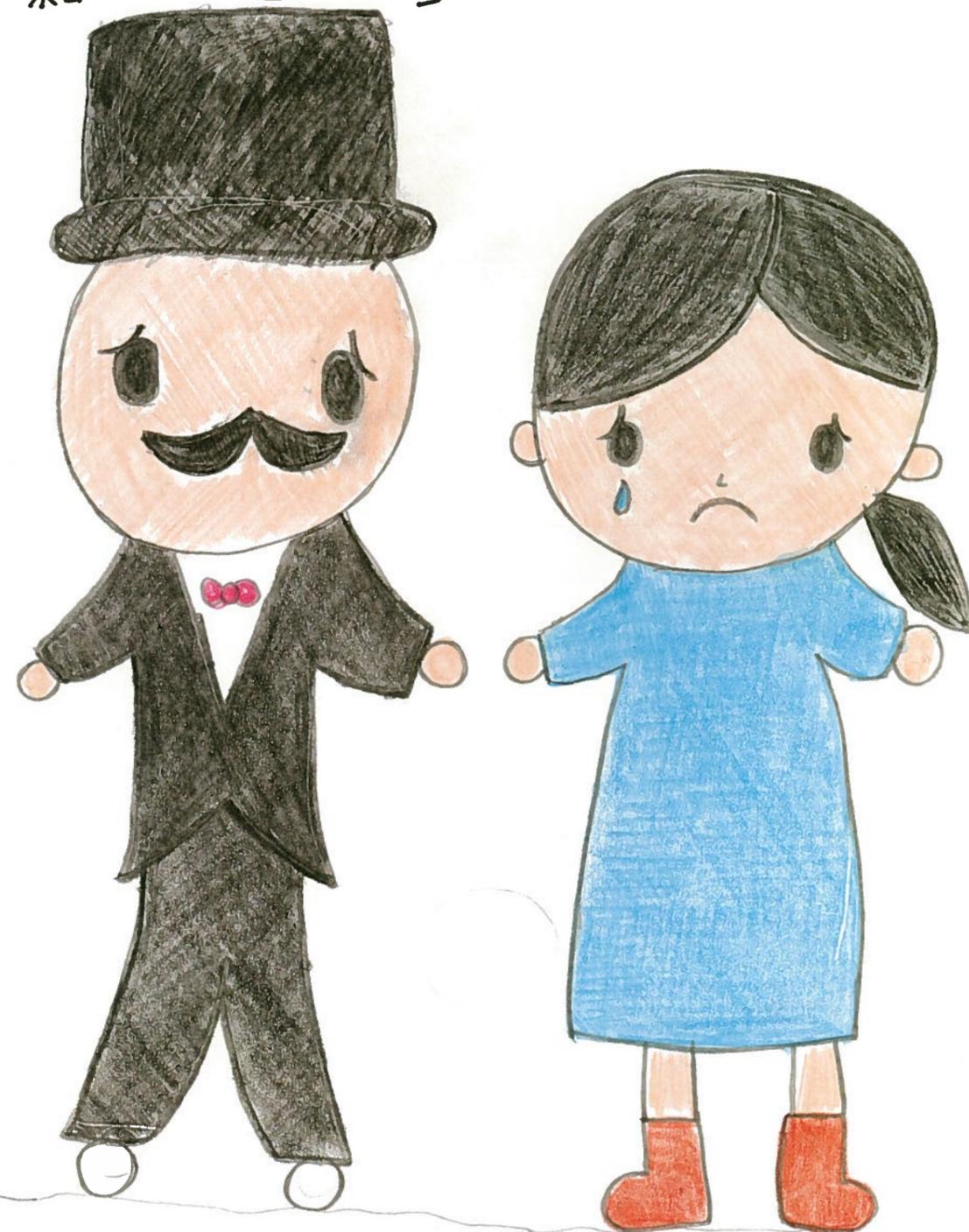
とんでもない事をしてしまった、とやっと気付きました。



ガレンは、ララに声をかけました。
「ララ、ユニコーンたちが帰ってくるようにがんばって何かしようよ。」
ララは、悲しすぎて、ガレンを怒る元気はなりました。

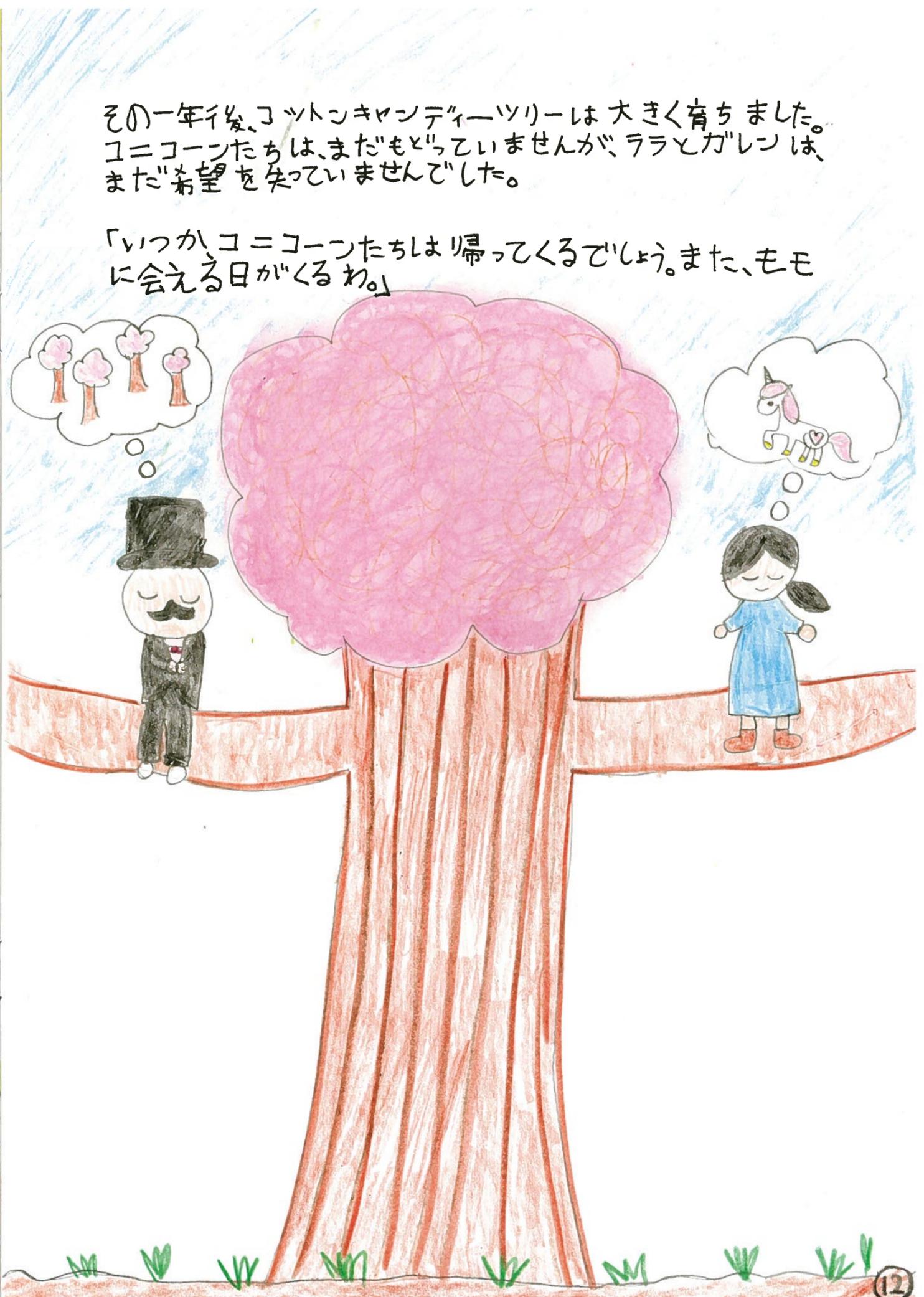
「どうすればいいの？」

ガレンは、「イ業と一緒に木を植えよう。」





ガレンは、たまっていたコットンキャンディーツリーの
の種を使って、新しい木を植えました。
ちょっとずつ育てていて、大きくなり始めました。



その一年後、コットンキャンディーツリーは大きく育ちました。
ユニコーンたちは、まだもどっていませんが、ララとガレンは、
まだ「希望」を失っていませんでした。

「いつか、ユニコーンたちは帰ってくるでしょう。また、モモ
に会える日がくるわ。」

最後まで読んでくれてありがとう！



この絵本は、2018年に行った「WWFジャパン森林絵本コンテスト」で、優秀作に選ばれた作品を本にしたものです。

いま、豊かな森が減り、野生の生きものたちの数も少なくなっています。世界の環境を守る「WWFジャパン」では、森にすむ生きものたちに、いまどんな問題が起きていて、どうすれば良いのかを学んだ小学生の皆さんから「絵本」を募集しました。小学生の皆さんが、授業で、森や自然、野生動物について学んだことや気づいたことを「絵本」にして家族やお友達に知らせようと、一生けんめい工夫して物語を作ってくれたのです。

みなさんは、この絵本を読んでどう思いましたか？ 感想を、ぜひ家族や周りのお友達と話し合ってみてください。森や、そこにすむ生きものを守りながら暮らすにはどうすれば良いか考える人がたくさん増えることが、森や動物を守ることにつながるからです。

私たちにできることのヒント「FSC®」マーク

私たちが使う紙は、森の木から作られています。むやみに木を切ってしまうと、動物たちのすむ場所もなくなってしまうかもしれません。「FSC®」は、森の生きものや、周りに暮らしたり働いている人のことを考えて、きちんと管理された森や、そこから生まれた紙につけられるマークです。動物たちの暮らしにできるだけ負担をかけないように森を使うようにしているので、FSCマークがついたノートなどを使うことは「森を守りながら使う」ことにつながります。ぜひ、このマークを覚えてください。



WWFって？

WWFは、100カ国以上で活動している地球環境保全団体です。1961年にスイスで設立されました。地球上の生物多様性の保全と、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷の軽減を柱として活動しています。

現在、特に力を注いでいるのは、森や海などの生態系を保全すること、木材や魚介類など、自然資源の利用を持続可能なものにすること、地球温暖化を防ぐこと。WWFのサポーターになることは、今すぐ、誰もが始められる環境保全です。人と自然が調和して生きられる未来を築くために、ぜひあなたの力を貸してください。



WWF ジャパン (世界自然保護基金ジャパン)

<http://www.wwf.or.jp>

東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 3階

TEL: 03-3769-1241 (平日 10:00 ~ 17:00) Email: hello@wwf.or.jp

「WWF ジャパン森林絵本コンテスト」2018 実施概要

参加校

青山学院初等部

アメリカンスクール イン ジャパン

沖縄 アミークスインターナショナル小学校

つくば市立学園の森義務教育学校

西町インターナショナルスクール

ニューインターナショナルスクール オブ ジャパン

ブリティッシュスクール イン トーキョー

幕張インターナショナルスクール

ユナイテッドスクール オブ トーキョー

主催 WWFジャパン

協賛 王子ホールディングス株式会社

王子ネピア株式会社

協力 株式会社カスミ

ぺんてる株式会社

監修 堀井清毅 教諭

(西町インターナショナルスクール)





「WWFジャパン森林絵本コンテスト 2018」受賞作品

この絵本は、王子ホールディングス株式会社のご支援により制作されました。

用紙提供：王子エフテックス株式会社

用紙名：OKミューズガリバーグロスハイホワイト 157 g/m²

印刷協力：文化堂印刷株式会社

OJI
Beyond the Boundaries

